

## セラミック事業の成長投資を加速 需要拡大に応えるために研究開発・生産体制を増強

～TOTOファインセラミックス豊前工場では「焼成棟」を建設中～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:田村 信也)は、成長セグメントであるセラミック事業の成長投資を加速させ、主力製品である「静電チャック」および「AD部材」の研究開発・生産体制を増強します。

TOTOはファインセラミックス製品を扱うセラミック事業を、中・長期経営計画「共通価値創造戦略 TOTO WILL2030」(以下、WILL2030)において成長セグメントと位置づけています。同事業は、半導体製造装置用の部材である「静電チャック」「AD部材」を主力製品としており、AI半導体やデータセンターなどの旺盛な需要拡大に伴って今後さらなる成長を見込んでいます。

同事業は、研究開発をTOTO茅ヶ崎工場(神奈川県茅ヶ崎市、以下茅ヶ崎工場)、製造をTOTOファインセラミックス本社・中津工場(大分県中津市、以下中津工場)およびTOTOファインセラミックス豊前工場(福岡県豊前市、以下豊前工場)で行っています。2020年10月に中津工場・第4棟(延床面積:約2万2000m<sup>2</sup>)を稼働して以降も、半導体の進化ならびに需要動向を見据えた計画的な成長投資を継続してきました。現時点で、茅ヶ崎工場・中津工場および豊前工場の3拠点において、2028年度までに約300億円の設備投資を行うことを決定しており、また、今後もさらなる生産増強に向けた大規模な投資計画を構想しています。

決定している投資は、これまでと同様、半導体の進化ならびに需要動向の将来トレンドをベースとした静電チャック・AD部材それぞれの研究開発・生産能力増強を目的としています。なお、豊前工場における静電チャック生産能力増強のための焼成棟建設はすでに2025年12月に着工済みで、2027年1月竣工予定です。その他投資案件につきましては、実行段階に入りましたら順次お知らせしてまいります。

1977年に創立したTOTOは、祖業である衛生陶器を100年以上、1946年に事業開始した水栓金具を80年にわたりつくり続けてきています。こうした水まわり製品の製造ノウハウをベースに、1984年にセラミック事業を開始しました。TOTOはWILL2030のもと、水まわりを中心とした住設事業と、半導体産業に寄与するセラミック事業とのシナジーにより、豊かで快適な未来社会を実現するとともに、経済的成長の実現をめざします。



セラミック事業の研究開発・製造拠点



TOTOファインセラミックス豊前工場で建設中の焼成棟完成イメージ図(2027年1月竣工予定)

# 共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

## きれいと快適・健康



「社会的価値・環境価値」と「経済価値」を同時に実現する共通価値創造戦略 TOTO WILL2030 では、「きれいと快適・健康」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」としてサステナビリティ経営を強化し、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/profile/philosophy/managementplan>